

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 4 年 5 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 5 月 3 1 日)

○調査期間：平成 1 4 年 5 月 2 0 日～2 4 日

○調査対象：全国の 3 9 9 商工会議所が 2 5 8 8 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 5 製造業 6 3 2 卸売業 2 3 2
小売業 7 4 3 サービス業 5 9 6

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4、7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成14年5月調査結果のポイント】

業況はわずかながら悪化し、景気底入れ感にはいまだ遠く厳しい状況。

- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲49.7）よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して▲50.4となった。これまで2カ月連続して縮小していたマイナス幅が、わずかながらではあるが拡大し、前月、平成12年8・9月以来1年7カ月ぶりにマイナス40台となったDI値の水準は、再びマイナス50ポイント台に低下した。業種別の業況DIを見ると、建設と卸売の2業種で前月よりもマイナス幅がわずかに縮小し、残り3業種では、いずれもわずかではあるがマイナス幅が拡大した。総じて各業種とも、依然としてDI値の水準は低いうえ、公共事業の削減や企業間競争の激化による先行き不安感を訴える声が多数寄せられており、また、5月の月例経済報告における政府の「景気は底入れしている」との判断に対し、「実感はない」との指摘も多く、景気底入れ感にはいまだ遠く厳しい状況にある。

建設業では、一部で「公共工事が前倒し発注されている」（一般工事）との声も聞かれるが、引き続き、「公共事業の落ち込みで受注が大幅ダウン」（土木工事）と、公共事業の発注件数の減少により厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。このため、「民間工事の受注競争が激化している」（木造建築工事）、「労務者の解雇が出ている」（一般工事）、「資金繰りが悪化」（土木工事）など、受注減少による影響を指摘する声が増えている。また、先行きについても、「公共事業の絶対量が減る方向にあり、公共事業は下り勾配」（一般工事、大工工事）と、悲観的な指摘が多い。民間工事についても、「安い単価と小規模工事で利益に結びつかない」（一般工事、建築工事）、「建築確認申請が激減」（電気工事）と、厳しい状況が続いている。

製造業では、一部に、「テレビ、DVD関連がよい」（電気機器製造）、「主力の自動車用が増加」（鉄素形材製造）と「回復の兆し」（金属加工機械、水産食料品製造）を指摘する声もあるが、同業者間の競争は依然として激しく、「コスト競争、価格破壊」（印刷業、金属素形材製品）による業況の悪化や、「短納期、小受注のため採算が悪化」（印刷、金属加工機械）との指摘が多い。また、そうした状況に加え、「生産の海外シフトによる国内生産、販売の低迷」（金物類製造、楽器製造、一般産業用機械）といった構造的な要因が、状況をより厳しくさせている。

卸売業では、引き続き、「消費意欲の減退による売上減少」（繊維品卸売、農畜産水産物卸、衣服・日用品卸）を憂う声が多く寄せられている。また、消費者の低価格志向も根強く、「低価格の焼酎・発泡酒の売上増も、総売上金額は伸びず」（食料・飲料卸）、「競争が激しく価格は回復しない」（各種商品卸）ほか、「中国商品の流入による市況の悪化」（衣服・日用品卸）を指摘する声も聞かれる。

小売業においても、消費者の買い控えや客単価の減少など、依然として消費低迷を懸念する声が多い。「人の出はあるが売上につながらない」（商店街、各種商品小売業）、「客単価が伸びないため、売上伸びず」（百貨店、商店街）といった指摘が、地域を問わず寄せられている。天候に関しては、「天候不順で夏物不振」（百貨店）、「降雨日増で苦戦」（百貨店）との一方、「気温上昇で初夏もの好調」（百貨店）、「気候よくなり人の動き活発」（商店街）との指摘もあり、気温の上下、天候の良し悪しにより、地域によって明暗が分かれた。

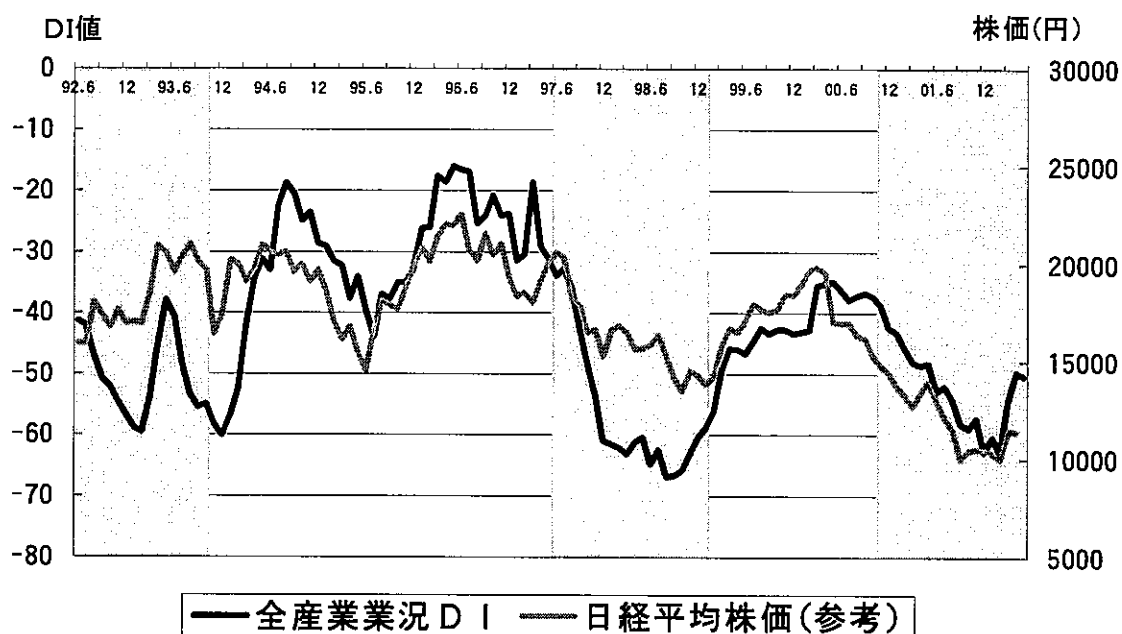
サービス業では、一部に「今後への期待感」（美容、その他事業所向けサービス）も散見されるものの、「GW期間中にもかかわらず不調」（旅館、食堂・レストラン、理容）、「来店客数が減少している」（喫茶店、旅館）との声が多く、依然として厳しい状況が続いている。また、「ユーザー車検の拡大で単価下落」（自動車整備）、「安売り店との競争が激化」（理容）など価格競争が激しくなっており、「経費節減もサ

「サービス業には限界」(旅館)の中で、採算悪化の要因となっている。

売上面では、前月水準と比較し、卸売で10.9ポイントと大幅なマイナス幅の縮小となったことなどにより、全産業合計の売上DIは、▲43.2と、3カ月連続でマイナス幅が縮小となった。3カ月連続の減少は、平成12年8月～10月以来1年7カ月ぶり。採算面では、建設、小売、サービスでマイナス幅がわずかに拡大したが、製造、卸売で改善が見られたことから、全産業合計の採算DIは、3カ月連続でマイナス幅が縮小し、▲45.7となった。

- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲37.1と、昨年同時期の先行き見通し(▲41.4)と比べて若干上向いている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、公共事業の削減や消費不振を受けて、事業者間での競争が激化しており、先行きに対する不安感を指摘する声が多い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

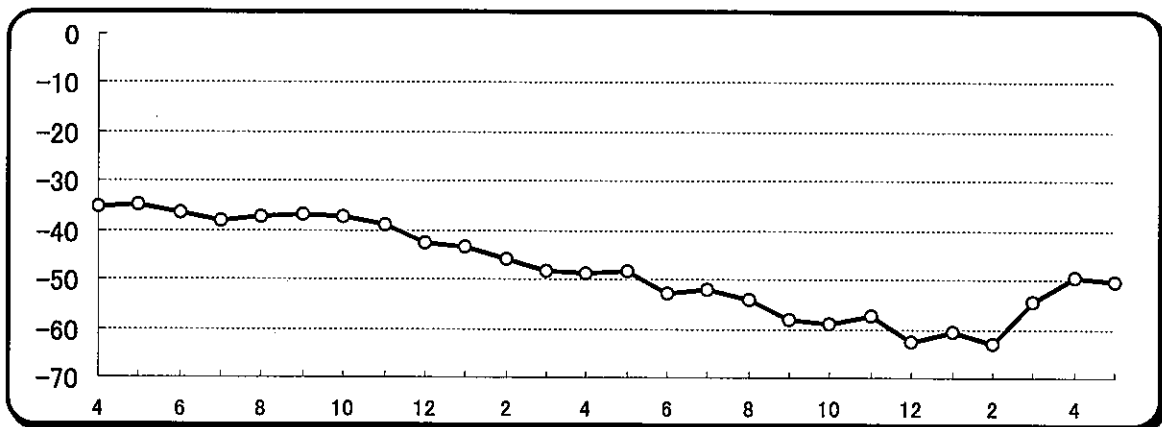
- 5月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲49.7）よりマイナス幅が0.7ポイント拡大して▲50.4となった。これまで2カ月連続して縮小していたマイナス幅が、わずかながらではあるが拡大し、前月、平成12年8・9月以来1年7カ月ぶりにマイナス40台となったDI値の水準は、再びマイナス50ポイント台に低下した。
- 向こう3ヵ月（6月～8月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲37.1と、昨年同時期の先行き見通し（▲41.4）と比べて若干上向いている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 50.4	▲ 37.1 (▲ 41.4)
建設	▲ 70.7	▲ 69.1	▲ 69.0	▲ 64.7	▲ 67.7	▲ 66.7	▲ 55.1 (▲ 49.1)
製造	▲ 69.9	▲ 64.4	▲ 65.1	▲ 59.0	▲ 53.6	▲ 53.8	▲ 34.3 (▲ 44.1)
卸売	▲ 70.2	▲ 68.2	▲ 70.9	▲ 62.8	▲ 58.4	▲ 58.1	▲ 37.5 (▲ 40.4)
小売	▲ 56.2	▲ 52.9	▲ 59.6	▲ 49.4	▲ 41.9	▲ 42.7	▲ 33.2 (▲ 38.2)
サービス	▲ 54.2	▲ 55.9	▲ 58.2	▲ 44.6	▲ 39.2	▲ 41.8	▲ 32.4 (▲ 37.3)

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年4月の先行き見通しDI<以下同じ>

≪業況DI（全産業・前年同月比）の推移≫



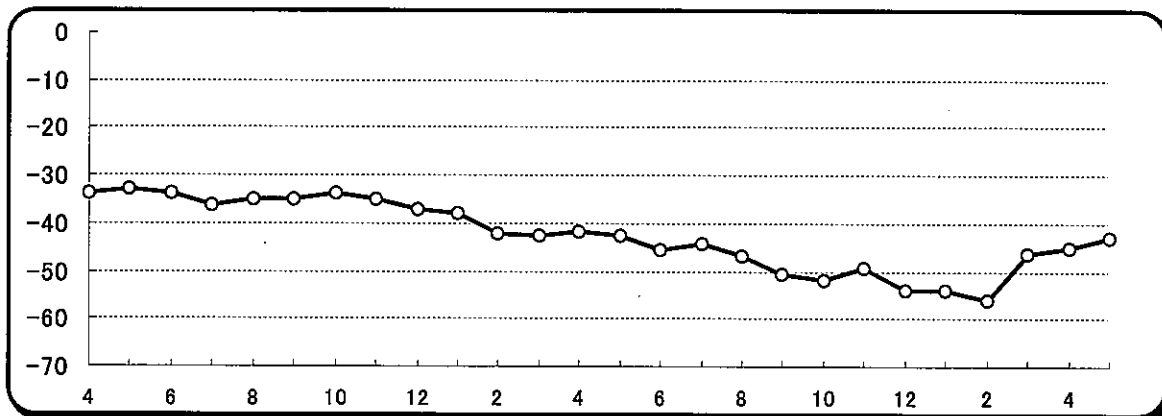
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 前月水準と比較し、卸売で10.9ポイントと大幅なマイナス幅の縮小となったことなどにより、全産業合計の売上DIは、▲43.2と、3カ月連続でマイナス幅が縮小となった。3カ月連続のマイナス幅の減少は、平成12年8月～10月以来1年7カ月ぶり。
- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI(今月比ベース)が▲29.2と、昨年同時期の先行き見通し(▲35.7)に比べて明るい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 53.9	▲ 53.9	▲ 56.0	▲ 46.5	▲ 45.2	▲ 43.2	▲ 29.2 (▲ 35.7)
建設	▲ 60.0	▲ 63.6	▲ 62.8	▲ 56.0	▲ 60.6	▲ 60.7	▲ 48.1 (▲ 43.7)
製造	▲ 60.0	▲ 59.6	▲ 60.6	▲ 52.3	▲ 48.6	▲ 47.7	▲ 26.3 (▲ 38.0)
卸売	▲ 57.0	▲ 63.1	▲ 62.3	▲ 58.3	▲ 56.5	▲ 45.6	▲ 26.3 (▲ 37.8)
小売	▲ 46.9	▲ 45.2	▲ 50.8	▲ 39.4	▲ 40.4	▲ 37.1	▲ 26.9 (▲ 34.1)
サービス	▲ 50.1	▲ 47.9	▲ 49.9	▲ 37.0	▲ 32.4	▲ 32.5	▲ 23.5 (▲ 28.7)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



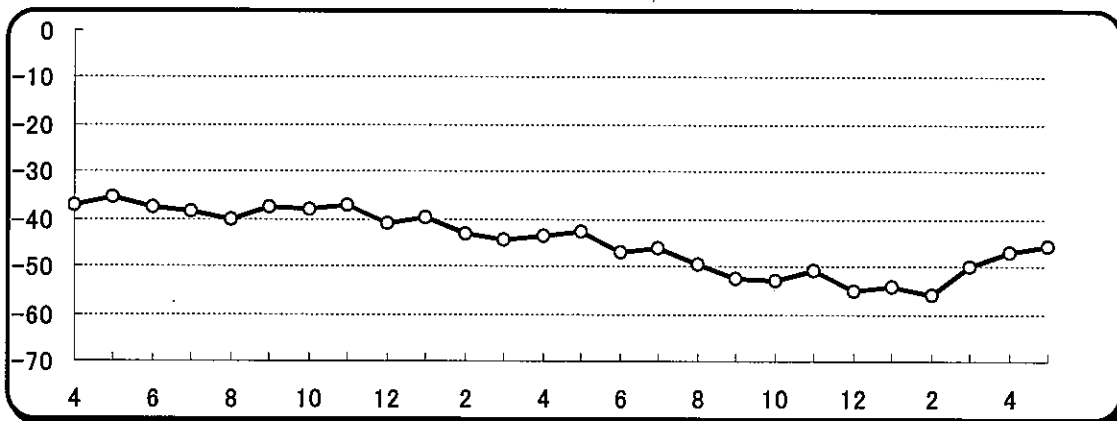
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設、小売、サービスでわずかながらマイナス幅が拡大したが、製造、卸売で改善が見られたことから、全産業合計の採算D Iは、3カ月連続でマイナス幅が縮小し、▲45.7となった。
- 向こう3ヵ月(6月～8月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲33.3で、昨年同時期の先行き見通し(▲35.9)と比べて、やや明るい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 55.2	▲ 54.0	▲ 55.9	▲ 49.9	▲ 47.0	▲ 45.7	▲ 33.3 (▲ 35.9)
建設	▲ 64.4	▲ 69.1	▲ 65.0	▲ 64.7	▲ 61.6	▲ 62.1	▲ 53.0 (▲ 48.7)
製造	▲ 63.5	▲ 60.4	▲ 61.3	▲ 54.2	▲ 55.8	▲ 51.6	▲ 32.0 (▲ 40.0)
卸売	▲ 57.6	▲ 57.3	▲ 61.6	▲ 53.2	▲ 54.0	▲ 47.5	▲ 28.8 (▲ 35.3)
小売	▲ 45.4	▲ 43.1	▲ 48.5	▲ 44.1	▲ 36.0	▲ 36.3	▲ 26.7 (▲ 31.5)
サービス	▲ 50.1	▲ 48.5	▲ 50.6	▲ 40.2	▲ 38.4	▲ 38.9	▲ 31.1 (▲ 28.2)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	▲ 42.5	▲ 41.2	▲ 42.7	▲ 41.1	▲ 37.9	▲ 36.3	▲ 29.6 (▲ 27.5)
建設	▲ 53.2	▲ 45.7	▲ 49.3	▲ 49.3	▲ 50.9	▲ 46.7	▲ 41.4 (▲ 37.7)
製造	▲ 51.8	▲ 48.2	▲ 49.3	▲ 49.0	▲ 48.2	▲ 43.3	▲ 34.4 (▲ 29.2)
卸売	▲ 35.7	▲ 43.0	▲ 40.6	▲ 37.0	▲ 37.1	▲ 33.3	▲ 23.9 (▲ 25.4)
小売	▲ 34.3	▲ 32.3	▲ 37.4	▲ 32.4	▲ 25.1	▲ 25.3	▲ 20.6 (▲ 23.7)
サービス	▲ 34.1	▲ 37.7	▲ 36.0	▲ 36.6	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 29.6 (▲ 23.6)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設、製造、卸売の3業種において悪化超感が弱まる。

【先行き見通しD I】卸売と小売で悪化超感弱まる。他の3業種は、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6~8月
全産業	5.1	3.7	2.1	3.2	0.9	1.0	▲ 1.4 (0.5)
建設	4.1	1.5	2.6	4.7	▲ 1.8	1.1	▲ 0.7 (1.4)
製造	1.4	▲ 3.1	▲ 5.0	▲ 2.2	▲ 5.5	▲ 5.9	▲ 7.6 (▲ 6.1)
卸売	18.7	14.7	11.3	13.5	9.4	8.2	▲ 2.5 (3.9)
小売	12.0	11.4	8.7	8.0	8.3	8.4	6.0 (6.4)
サービス	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 1.8	▲ 2.1	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 4.0 (▲ 1.3)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】建設、小売を除く3業種で、下落超感が弱まる。

【先行き見通しD I】全業種とも、昨年同時期に比べ下落超感が弱まり、特に、小売業を除く4業種で、マイナス(上昇超過)となる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全産業	▲ 19.2	▲ 19.3	▲ 19.4	▲ 18.6	▲ 17.6	▲ 17.2	▲ 14.3 (▲ 12.3)
建設	▲ 34.6	▲ 34.5	▲ 36.5	▲ 35.8	▲ 35.3	▲ 36.8	▲ 28.4 (▲ 25.5)
製造	▲ 30.7	▲ 30.2	▲ 27.7	▲ 26.8	▲ 26.4	▲ 23.2	▲ 18.3 (▲ 12.9)
卸売	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 21.9	▲ 21.8	▲ 21.1	▲ 20.6	▲ 15.8 (▲ 13.2)
小売	▲ 7.2	▲ 8.1	▲ 9.8	▲ 6.9	▲ 6.8	▲ 6.4	▲ 8.4 (▲ 10.0)
サービス	▲ 9.5	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 10.7	▲ 7.7	▲ 8.9	▲ 6.5 (▲ 4.4)

$$D I = (\text{不足の回答割合}) - (\text{過剰の回答割合})$$

【前年同月比D I】建設、サービスを除く3業種で、過剰超感が弱まる。

【先行き見通しD I】小売を除く4業種で、昨年同時期に比べて過剰超感が強まる見通し。

【平成14年5月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

引き続き、業種・地域を問わず、今後の業況に関する不透明感により、先行きへの不安を指摘する声が多く寄せられている。建設業からは、「公共工事の10%減の影響を危惧している」（釧路・一般工事）、「公共工事減少により、民間工事の受注競争が激化」（唐津・木造建築工事）といった声が、製造業からは、「同業者間の価格引き下げ競争激化で、今後、受注減少を予想」（町田・印刷業）、「コストギリギリの受注で最大の危機」（館山・金属加工）などの声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「大型店間の価格競争が激しく、依然価格は回復せず」（帯広・各種商品卸売）、「客単価が低下しており、ヒット商品も期待できない」（佐野・百貨店）、「これから団体旅行シーズンに入るも予約状況よくない」（赤穂・旅館）、「夜の街の人通りが非常に少なくなっている」（福山・食堂・レストラン）などの声が寄せられている。

○ 「景気底入れ感」なし

5月の月例経済報告において、政府が「景気は、依然厳しい状況にあるが、底入れしている。」との判断を示したことに對し、各業種から、「実態は景気底入れ感はまだくない」（一般工事、繊維品卸売、家具・建具卸売）、「言われているような状況には程遠い」（一般産業用機械製造、製材木製品製造）、「政府判断と異なり、依然厳しい状況」（商店街）、「実態は、この先いまだ厳しい」（一般飲食店、すし店）といった指摘がなされており、早急な「景気回復対策を期待」（建築用金属製造、その他サービス）との声が寄せられている。

○ 天候の影響

「4月前半までの気温上昇による春物、初夏物先行による反動」（柏・百貨店、横浜・百貨店）に加え、4月後半から5月にかけて、気温の上下が激しく、降雨もあって天候が不安定であった地域からは「初夏物、夏物衣料が不振」（宇都宮・百貨店、田辺・商店街）との声が寄せられている。一方、比較的好天に恵まれた地域からは、「初夏物、夏物を中心に足好調」（福島・百貨店、名古屋・百貨店）との指摘もあり、気温の上下、天候の良し悪しにより、地域によって明暗が分かれた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
14年 3月	先行き不透明感	倒産・廃業	回復への期待感
4月	先行き不透明感	倒産・廃業	気温上昇
5月	先行き不透明感	「景気底入れ感」なし	天候の影響

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などについての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	<p>前月、マイナス幅が拡大した業況DⅠは、1ポイントの改善。売上・採算DⅠは、いずれもわずかながらマイナス幅が拡大。一部で「公共工事が前倒し発注されている」（一般工事）との声も聞かれるが、引き続き、「公共事業の落ち込みで受注が大幅ダウン」（土木工事）と、公共事業の発注件数の減少により厳しい状況を訴える声が多く寄せられている。このため、「民間工事の受注競争が激化している」（木造建築工事）、「労務者の解雇が出ている」（一般工事）、「資金繰りが悪化」（土木工事）など、受注減少による影響を指摘する声が増えている。また、先行きについても、「公共事業の絶対量が減る方向にあり、公共事業は下り勾配」（一般工事、大工事）と、悲観的な指摘が多い。民間工事についても、「安い単価と小規模工事で利益に結びつかない」（一般工事、建築工事）、「建築確認申請が激減」（電気工事）と、厳しい状況が続いている。</p>
製 造	<p>業況DⅠのマイナス幅はほぼ横ばい。売上・採算DⅠのマイナス幅はいずれも縮小。特に採算DⅠは4.2ポイントの改善。一部に、「テレビ、DVD関連がよい」（電気機器製造）、「主力の自動車用が増加」（鉄素形材製造）と「回復の兆し」（金属加工機械、水産食料品製造）を指摘する声もあるが、同業者間の競争は依然として激しく、「コスト競争、価格破壊」（印刷業、金属素形材製品）による業況の悪化や、「短納期、小受注のため採算が悪化」（印刷、金属加工機械）との指摘が多い。また、そうした状況に加え、「生産の海外シフトによる国内生産、販売の低迷」（金物類製造、楽器製造、一般産業用機械）といった構造的な要因が、状況をより厳しくさせている。</p>
卸 売	<p>業況DⅠは3月以降3カ月連続、売上DⅠは2月以降4カ月連続でマイナス幅が縮小。前月、わずかながらマイナス幅が拡大した採算DⅠも、6.5ポイントの縮小。引き続き、「消費意欲の減退による売上減少」（繊維品卸売、農畜産水産物卸、衣服・日用品卸）を憂う声が多く寄せられている。また、消費者の低価格志向も根強く、「低価格の焼酎・発泡酒の売上増も、総売上金額は伸びず」（食料・飲料卸）、「競争が激しく価格は回復しない」（各種商品卸）ほか、「中国商品の流入による市況の悪化」（衣服・日用品卸）を指摘する声も聞かれる。</p>
小 売	<p>業況・採算DⅠはいずれも前月と比較してマイナス幅がわずかに拡大。一方、売上DⅠは、マイナス幅が縮小。消費者の買い控えや客単価の減少など、依然として消費低迷を懸念する声が多い。「人の出はあるが売上につながらない」（商店街、各種商品小売業）、「客単価が伸びないため、売上伸びず」（百貨店、商店街）といった指摘が、地域を問わず寄せられている。天候に関しては、「天候不順で夏物不振」（百貨店）、「降雨日増で苦戦」（百貨店）との一方、「気温上昇で初夏もの好調」（百貨店）、「気候よくなり人の動き活発」（商店街）との指摘もあり、気温の上下、天候の良し悪しにより、地域によって明暗が分かれた。</p>
サービス	<p>前月まで2カ月連続で業況・売上・採算DⅠともにマイナス幅が縮小したが、今月は、いずれもわずかながら拡大。一部に「今後への期待感」（美容、その他事業所向けサービス）も散見されるものの、「GW期間中にもかかわらず不調」（旅館、食堂・レストラン、理容）、「来店客数が減少している」（喫茶店、旅館）との声が多く、依然として厳しい状況が続いている。また、「ユーザー車検の拡大で単価下落」（自動車整備）、「安売り店との競争が激化」（理容）など価格競争が激しくなっており、「経費節減もサービス業には限界」（旅館）の中で、採算悪化の要因となっている。</p>

(参考)

【ブロック別概況】

- ブロック別の業況DI（前年同月比ベース）をみると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。前月水準に比べてマイナス幅が縮小したブロックが、東北、東海、中国、九州の4ブロック。特に、東北、東海、九州は3月以降3カ月連続のマイナス幅縮小した。一方、北海道、北陸信越、関東、近畿、四国の5ブロックでマイナス幅が拡大した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（6月～8月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。しかしながら、北海道、東北を除く7ブロックで、昨年同時期の先行き見通しに比べ、明るい見方となっている。

ブロック別・全産業業況DI（前年同月比）の推移

	13年 12月	14年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 6～8月
全 国	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 63.1	▲ 54.4	▲ 49.7	▲ 50.4	▲ 37.1 (▲ 41.4)
北海道	▲ 44.3	▲ 52.0	▲ 48.1	▲ 34.6	▲ 41.8	▲ 43.3	▲ 35.8 (▲ 32.8)
東 北	▲ 66.0	▲ 65.7	▲ 67.6	▲ 65.7	▲ 59.2	▲ 55.3	▲ 50.6 (▲ 38.1)
北陸信越	▲ 61.5	▲ 63.8	▲ 65.4	▲ 54.9	▲ 50.0	▲ 52.8	▲ 33.5 (▲ 37.3)
関 東	▲ 59.5	▲ 58.5	▲ 55.9	▲ 48.8	▲ 44.5	▲ 44.9	▲ 31.5 (▲ 32.5)
東 海	▲ 67.8	▲ 63.4	▲ 69.0	▲ 62.6	▲ 48.9	▲ 43.7	▲ 34.1 (▲ 44.1)
近 畿	▲ 68.8	▲ 66.7	▲ 71.4	▲ 66.7	▲ 54.9	▲ 61.9	▲ 45.6 (▲ 56.1)
中 国	▲ 68.2	▲ 57.5	▲ 65.3	▲ 52.7	▲ 58.1	▲ 57.0	▲ 35.8 (▲ 53.0)
四 国	▲ 67.9	▲ 58.3	▲ 70.2	▲ 61.1	▲ 53.9	▲ 57.3	▲ 41.8 (▲ 52.8)
九 州	▲ 62.4	▲ 54.5	▲ 60.5	▲ 44.2	▲ 42.7	▲ 42.6	▲ 31.6 (▲ 35.6)